

平成29年度 第2回飯田市行財政改革推進委員会 議事録

日時：平成29年10月11日（水）13：30～15：00

場所：市役所 A棟203～204会議室

出席者：佐々木会長、林（会長職務代理）、下平委員、伊藤（貴）委員、森下委員、上河内委員、北原委員、伊藤（力）

佐藤行財政改革推進本部本部長、伊藤総務部長、櫻井財政課長、原田人事課長
串原企画課長、事務局

欠席者：中島委員、梶川委員、西塚委員、小林委員、中山委員、原委員

1 開会（伊藤総務部長）

2 あいさつ

（佐藤本部長）

本日は、4月から新しくスタートしている行革実行計画のひとつ「市役所をもっと良くする1%提案」の取組について協議をいただく。職員から組織や業務等について「こうして行きたい」、「こういう取組をしてみたい」といった提案を募集し、市役所の中からの改革としてどのような取組を進めていくか検討を行っている。委員の皆さんからも、外からの目線で「もっとこうしたら良いのではないか」、「もっとこういう取組をしたらどうか」など意見をいただきたい。

組織を大きく変えていくことは難しいが、「1%改革」とは少しずつでも変えていくことで、大きく発展していくと考えている。本日も活発な意見をお願いしたい。

（佐々木会長）

本日は出席者は少ないが、少数精鋭でしっかり議論していただきたい。新しくスタートした行革実行計画の取組である「市役所をもっと良くする1%提案（改革）」から職員提案が提出された。本日は委員のみなさんにも提案内容を見ていただき、感じるままに意見をいただきたい。

3 協議事項

（1）行革実行計画に基づく「市役所をもっと良くする1%提案」の取組状況について

（下平委員）

本庁の窓口と自治振興センター窓口は温度差がある。本庁の職員は笑顔で対応してくれ対応が早い、自治振興センターは待ち時間が長い。改善策を検討していただきたい。

（北原委員）

臨時職員の任用期間について職種により期間に差はあるが、仕事に慣れた頃に職場を離れることになる。市民サービスの低下に繋がる原因になると思う。働く者の立場から、雇用期間が安定することで収入も安定するため期間の見直しを検討してほしい。

（伊藤（力））

職員からボランティア活動等の提案が出されているが、地域としてはありがたい。

しかし、地元の力を行政として活用することも考えてほしい。例えば、非組合員が居住する地域であるが孤立している方が多い。地域への関わりが無く、行政の情報が伝わりにくいなど課題に行政としてどう対応するか検討する必要がある。

(森下委員)

区費を納めている非組合員の方にも地区からの協力・参加依頼の通知を送付したところ、その内数人が出席し、通知に対して「ありがたかった」という感想をいただいた。行政頼りでなく地区においてもある程度の工夫も必要である。

(下平委員)

組合へ配布される回覧文書等は非組合員にはどのように対応しているのか。赤い羽根や緑の募金等の通知は回覧されているのか。

(串原企画課長)

「広報いいだ」については、組合を通じて配布することができないことから、各自治振興センターやコンビニエンスストア等を利用し配布している。

(伊藤総務部長)

赤い羽根や緑の募金の通知等は非組合員には通知されていない。

(佐々木会長)

組合未加入は永遠のテーマであり、市の職員が自ら地域へ参加することは良いことである。組合加入を進めるための対策検討の必要性を感じる。

(伊藤(貴))

職場の3Sやラジオ体操などは提案しないと実施できないのか。当たり前のことであり常に実施することである。自ら率先してできる内容ばかりだと思う。ラジオ体操などは上司が率先してやれば、部下もついてくる。

残業・代休取得は上司からの命令で実施するものであり、上司が把握するものである。例えば、代休取得については、取得しないと休日出勤は認めないなどルール作りも必要である。個人の管理だけでは代休は消化できない。上司が仕事の把握をしていないためこのような提案が出されるのではないか。

年休の取得促進は、どちらかと言えば労働組合側の話である。例えば未消化の日数に応じて翌年度指定した日数を年休取得するという「計画年休」というルール作りも良いのではないか。

実務的な提案として、公民館の会議室予約が平日(8:30~17:15)しかできないため緩和策を検討してほしい。市役所に提出する書類をネット上で事前に記入でき、選択型の様式にすることで、窓口がスムーズになるのではないか。

(上河内委員)

組合加入について、県外から引っ越してきた際に戸建でなかったため加入できない感じがあった。また、加入の仕方もわからなかった。組合に加入したいけど加入できないでいる方もいるのではないか。

電子化による効率性は必要でありサービス向上にもつながると思うので、システムの構築の検討をお願いしたい。世代により利用できない方への考慮も必要である。

部署間の交流の提案について、横のつながりや職員同士の仕事の情報共有という面からも大切である。

市の予算について、年度末になると余った予算を消化するといったことを聞いた。予算は適切に大事に使っていただきたい。

(林委員)

それぞれ貴重な提案が出されている。提案制度は一過性にならないよう継続的に実施していただきたい。提案に色々なレベルがあるので、整理して組織的な提案については担当部署がレスポンスをする必要あると思う。

職員個人の提案や部署提案について自己評価が必要かと思う。提案の内容や評価を情報共有することで課題など共有できるのではないか。

(佐々木会長)

それぞれ貴重な提案なので、提案した職員、職場にフィードバックする必要がある。

採用された提案は喜びにつながり、仕事の励みになる。提案を整理し色々な角度から検討していただきたい。

(櫻井財政課長)

市役所の取組以外に別の観点から提案いただいた。計画年休や申請様式等の電子化などの意見は庁内で検討していきたい。提案された意見については、各分野ごとに整理し既に実施されていることは継続し、提案の情報の共有については、グループウェア（内部ツール）を利用し配信、認識し他部署で実施している。年度末にどんな取組を実施したか行財政推進委員会へも報告していきたい。

市の予算については必要最低限を予算化しており、年度末に余った予算を消化するといったことのないよう財政課でも留意している。

(伊藤総務部長)

組合未加入問題は行政としても非常に大きな課題である。まちづくり委員会の皆さんにも協力いただき、新たに組合加入した世帯数に応じて補助金を交付するなど対策を講じているが、市としても更に対策を考えていきたい。

上司の監督管理や、臨時職員の任用期間についても今後の課題として検討していきたい。

自治振興センターの職員の対応や公民館の施設利用申し込みについては担当課を通じて意見として伝えていく。

職員提案については、今後、部課長会議などで検討し、職員や各職場フィードバックし実効性ある取組にしていきたい。

4 報告事項

- ・飯田市行財政改革大綱における改革プラン（平成24年度から平成28年度）実績について
- ・平成28年度飯田市決算の概要について

(林委員)

歳入から歳出を差し引くと黒字10億円とあるが、繰越金や基金の取り崩しなども含まれており、これらを除いた1億円の赤字の補填はどうしているのか。

(櫻井財政課長)

基金の1億円を取り崩している。

(林委員) 歳入、歳出には地方債、公債費も含まれており、プライマリーバランスの考え方から言うとプラスという考え方でよいか。

(佐藤本部長)

歳入から地方債（35億）を引いたものと、歳出から公債費（49億）を引いたものを比べると歳入の方が大きいですが、飯田市の歳入には地方交付税とそれに代わる地方債（臨時財政対策債）も含まれており、国の財政と同じように議論するのは難しいところもある。国でいう「赤字国債」に当たるものは地方自治体は発行できないことから、地方ではプライマリーバランスはマイナスになりにくい。

6 その他

- ・ 第2回推進委員会議事録について
- ・ 報酬及び旅費について

(佐藤本部長)

「市役所をもっと良くする1%提案」の取組について、貴重な意見をいただいた。民間だったら当たり前のことが提案として提出されることは、組織として見直すべきことが多々あると感じている。今後、委員からいただいた意見をもとに更に検討し実行していきたい。本日はありがとうございました。

7 閉会